

グローバル経済下の情報危機はここまで来た。 痛烈で洞察に富むマルチメディア・シアター登場

[Super Vision] The Building Association & dbox
BAM Harvey Theatre/NEW YORK
(BAM 2005 Next Wave Festival)
11/29.30, 12/1, 2, 3, 2005

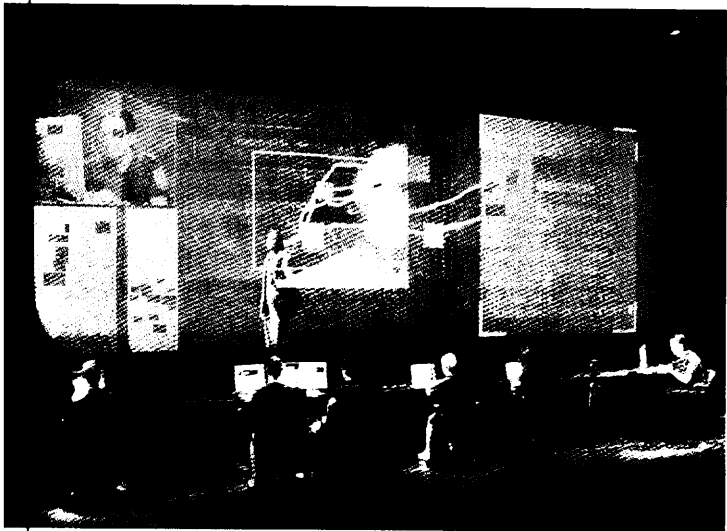
は、現在、道化師の仮面をかぶり、宣伝広告に踊らされているアンボンタンたちをうまく統制している

昨年グローバル経済の電話サービス セールスの実体を、インドに在住するテレマーケティングたちがいかにもアメリカにいるかのごとく訓練されている、という軽快なブラックコメディ仕立てでインタラクティブなマルチメディアシアターを発表したニューヨークのアーティスト アクティビスト集団ビルダーズ・アソシエーションが、昨年11月12日、新作「スーパービジョン」を披露した。911の同時多発テロ後、アメリカ政府のヒステリックな情報統制がいかに専制的で且つ滑稽であるかを痛烈に風刺した複合的な場面構成で仕

に住むボケかかった祖母のため、ウェブカムでコミュニケーションをはかる。祖母のアルバムの写真をスキャンして送り、なんとか祖母の正確な記憶を再構築しようとする。そしてかつてのイギリスの植民地政策へのノスタルジーや現代の地球規模のアメリカ合衆国メディア広告文化戦略力を観客に匂わせてゆく。ちなみに孫娘役を演じた女優は、昨年のルー・リードやデイビッド・バーンをかり出して行われた津波義援金パフォーマンスイベントの仕掛人である。その3 : アメリカ都市部郊外に住む白人中流階級の幸せそうなりビング、ダイニングキッチン。ビデオプロジェクトされる金髪の快活な少年と、その両親役を演ずる実際の舞台俳優達。一見、溫和で聡明そうな父親だが、幼い息子の名義で次々に新しいクレジットカードをつくってゆき、自分のコントロールのきかないところまで雪だるま式に借金が膨らんでゆく。深刻な社会問題になっている個人情報漏洩、窃盗が実の親子間で生じ、癌細胞のように若い滝洞とした健康体のような平和な家庭を蝕み、破壊へと導いてゆく。

複数の場面を舞台上の一つの時間ベクトルで進行交錯させてゆく脚本スタイルは、国際石油ビジネスの陰謀と超大国家の汚穢をシャープに且つ力強く描いた映画「シリアナ」のアカデミー受賞シナリオ作家、ステイブン・ガガンの手法と同じである。地球規模の金権政治とデジタル通信技術への鋭い洞察力、そして人間の根源的欲望を、軽やかな笑いと哀しみの劇的空間へと様々な人間模様を織りこみ、一つの物語に作り上げる。また舞台構成は、観客に背を向けてデジタル・アーティストたちがコンピューターに向かって座り、その向こうのビデオプロジェクションの中で俳優達がマルチメディア・インタラクティブ・シアターを生み出してゆく。

さて最後に蛇足だが、オサマ・ビン・ラディンが本当にまだどこか自然状況の過酷な場所で生き延びているのであれば、国際石油ビジネスと癒着しきった腐敗そのものの現プッシュ政権「ビッグブラザー」下では捕まらないでほしいものだ。高橋葉子(インディペンデント・キュレーター/ニューヨーク在住)



人類歴史上最大の軍事金権帝国アメリカ合衆国の頂取、ブッシュ大統領が「生け捕りでも、死体でも」と探しまくっているオサマ・ビン・ラディンは、最新のグローバル探知機にもひっかからず、ヒマラヤ山脈近辺で仙人のように山を渡り谷を渡り洞窟の中で生息しているという。これは国際的にも予想外の事態だろう。今や、最新鋭の高性能デジタル通信を持ってして当局政府から逃れられる術はないはずだから。いわんや、むやみやたらにネット購買しまくったり、お気楽に携帯アンケートなどに答えるアンボンタンやからなぞは、その個人情報がいっとうい形で盗まれ、まったく予想外の人生の転落を向かえてもおかしくはない。その昔SF小説の始祖ジョージ・オーウェルが「1984」に描いた超大国家の統治者「ビッグブラザー

上げた秀作であった。舞台上に織り成される3 ケースは:

その1 : ウガンダ共和国出身のインド系国際若手ビジネスマンが、アメリカ国内のパスポート検査窓口でいちいちひっかかり、出張で立ち寄る各都市空港で執拗な検問が繰り返されるうち、とうとうパスポート検査官がそのビジネスマンの情報を何から何まで入手し、個人識別の指紋捺捺する度、見ず知らずの検査官達から「最近カナダに住む叔母様が亡くなられたようで。御愁傷様です。」とか「ニュージャージーでずいぶんとお買い物を楽しみましたよね」とか、「あなたの年令身長体重にしてはコレステロール値が高すぎますよ。」とか声をかけられ、茫然自失する。

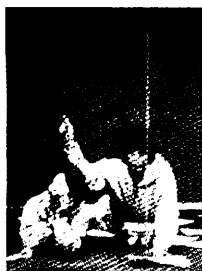
その2 : ニューヨークに住む若い女性が、スリランカ

INTOWN

スター誕生か。

■ステイブ・ジョブスがウォルト・ディズニーの取締役の一人になる、と旅先で読んだ経済新聞が報じていた。ジョブスが作ったもの…人に優しいアップルII型コンピュータ、3次元アニメのバイオニアとなったピクサー社、アイマック、そしてアイポッド。画像掲載アイポッドでは昨年の発売以来すでに800万本の映像ソフトを販売したようだ。そして今、ディズニーの現会長と仲良く手を握り合う。ジョブスがそういうふうにして社会のパソコン化に道を開いて来た約20年間に、では、パソコン化が壊れて来たものとは何だろう。生活文化への管理と破壊は、どこまでどのように突き進んでいるのか。人類の福音となったあらゆるテクノロジーは、程度の差はあれ、おおむね毒を持ち合わせているのだ。ニューヨークのビルダーズ・アソシエーションが「スーパービジョン」という興味深い弊習を放ったことを、高橋葉子さんがレポートしてくれた。(JI)

■2月10日 アートネットワークジャパン主催の「東京国際芸術祭」開催。にしがも創造舎にて記者会見。2月10～3月17日。ホームページ <http://www.tif.anj.or.jp> を参照。ディレクターの市村氏の見聞は、現代社会の姿を鋭く映し出した作品を集めること。イスラエルの振付家ヤスミン・ゴダールの「ストロベリークリームと火薬」は、政治と表現の関係を見つめたいという



スリーポイント「ベケットライブ」

市村氏の言葉のとおり、注目の作品の一つに思える。暴力と政治が日常として生活の中に入り込んでいくイスラエルの日常が、ダンスという形でのように具現化されるのか、それが我々の目にどのように映るのか。クウェートからやってくるスレイマン・アルハッサムシアターも含め、我々が普段目にすることの少ない中東地域の作品を集めているのも、この芸術祭ならではの。また今回は、アメリカの現代戯曲を日本の演出家が演出するリーディングプログラムや、ベケット作品を一人芝居で舞台化するプログラムなど、「翻訳」というテーマを改めて考えさせるような作品も目につく。提携公演である「118サイコシス」では演出家と戯曲を結びつける「ドラマトゥルク」という役職を積極的に起用するなど、翻訳という作業に限らず、広く戯曲や作品の素材となるテキストにどのように向き合うのかという問題意識も含まれているようだ。いろいろの意味で、日本の演劇界に対して問題提起を含むのはこの芸術祭の大きな特徴だ。このように昔くどく非常に専門的で難解な内容のように思われてしまいがちだが、個人的には広く色々な人に観ていただきたい、お勧めのプログラムが揃っている。(小笠原幸介)

■前回岸田戯曲賞最終選考にも残った東憲司が主宰する劇団杖敷童子。「風来坊雷神屋敷」(10/15～30北区・飛鳥山公園内特設天幕劇場)は、劇団員が一致団結して創り上げた(作サジキドウジ)見応えたっぷり痛快娯楽時代劇となった。物語は、かつて、この日本で生贖や人柱として育てられた子どもである「阿呆丸」を生贖や人柱に、その「阿呆丸」の到来を待ちわびる山村の民と、生贖の儀式を阻止しようとする「柱崩し」



杖敷童子

の山賊、そして生贖の風習を生む元凶である龍神信仰そのものを治水技術によって粉砕しようとする浪人の、つどもえの闘いを描く。あたかも国枝史郎の伝奇小説を彷彿とさせるような世界観に、小山ゆづりのマンガ「あずみ」や泉鏡花の「夜叉ヶ池」、黒澤映画「用心棒」などへのオマージュを叫び込みながら換骨奪胎し、稗史を通して従来の歴史観や倫理観を転覆させてみた。その設定の奇抜さ、プロット立ての確かさ、古語・古典文法を多様化したセリフの妙に加え、演技面では看板女優・板垣桃子の進境著しく、小劇場界の新たなスターの誕生を実感した。他の劇団員それぞれの見せ場も光っており、南谷朝子、岡島博徳ら客演の実力派俳優たちも気を吐いて、寒中にも関わらず特設テントで本水を使った大立ち回りを熱演。アングラならではのスリリングな快作に、芝居の醍醐味を堪能した(堤広志)

■新情報 / 1950年代の炭鉱街を舞台に繰り広げられる人間模様。第16回下北沢演劇祭参加『泥花』…明日二、咲ケ! 2月10日(金)～19日(日)於・下北沢ザ・スズナリ

既成の表現を捨て、固定観念を解き放て。 OM-2+自動焦点の演劇的冒険、始動

【作品 NO.4-リビングー】
3月24日(金)～28日(火)
神楽坂 die pratzte

OM-2

公演をする側が金銭を受け取り、観客は観るといって消費をする。そうしていれば、演劇という商品の取引が成立したと考える人は多いようです。その真偽はともかく、では、商取引が目的ではない演劇とはどういったものでしょうか？

この問い掛けの答えにはならないかもしれませんが、取っ掛かりになる演劇が私の目の前にあります。私は今度公演するOM-2に俳優として参加し、稽古場に顔を出しているうちに考えたことのいくつかを参考までに書きたいと思います。

OM-2の公演は商品として観るのと、商品として作ってない稽古を見るのと大きく変わってきます。商品として観たときは、通俗さと芸術っぽさが半ば、過激に見えるパフォーマンスや大きな舞台装置に鼻白んで、

こういうの好きな人は好きだよねという感想が芽生えたりもします。まるで、普段見慣れない食品を買って食べた感想です。

OM-2の稽古では商品として成り立たせようとした努力は徹底的に破棄され、商品化する為の道は塞がれていきます。金銭で交換

可能なものはなくなっていく、俳優が持ちえるただ一つのもを提示することが求められていきます。感情を表現する為の演技形式や、説明する為の段取り、美しく見せる為の技術、意識的無意識的にしてしまう舞台上の所作を排除していくことが念頭に置かれています。その稽古場では、舞台表現の為に用意してきた便利な「道具」、舞台から人を説得する為に用いられてきた「道具」が使えないのです。しかし、経験のあるなしにかかわらず、殆どの人が観るにしても演じるにしても一度目にしたものを基準にして、演技ってこうじゃないか？という観念にしたがって模索するものです。感情を出すところではそれっぽい感情表現をして巧拙を競い合うのです。少なくとも、何らかの商品価値を生み出すという目的のもとでは。

「道具」と観念を排除してしまえば、何をどうしたらいいのかまるで分からなくなってしまいます。そして、何をどうしたらいいのかまるで分からなくなってしまったというところから、OM-2の稽古は始まっています。このとき稽古場は、制約のない、しからみのない自由な場所として目の前に展開します。この自由は説明が難しい。その場所に立ち向かう俳優の頭に浮かんだ自由の絵図は、きつと自由に対する思い込みに過ぎず、自由だと思える一形式でしかないからです。きつとそれは自由とは違う別のものではないかと。

このことから考えるに、OM-2の公演は、それが商品であるとか、消費物であるという考えを捨てて観ることが大切だと思いますが、実際、公演では稽古のようにはいかず、公演する側もどこか商品化してしまうきらいがあることから、観劇の制約、しからみが排除されることも難しいことと思われる。これはOM-2の課



題でもあり、彼らに商品化を課してしまう現状の課題でもあるのでしょうか。最期になりましたが、演劇の目的とは何でしょうか？単純に公演だと割り切ることが出来なくなるのが現状を変化させていくことなのかもしれません。

佐藤一茂(60億人の為の演劇) 俳優

OM-2 プロフィール:

真壁茂夫を中心に87年に結成。以来、前衛的で実験的な作品を次々と発表。94年より海外公演活動を始め、ボルドー、NY、ワルシャワをはじめ、ヨーロッパ、アジア、アフリカなどの国際フェスティバルに数多く招聘される。http://www.om-2.net

公演「作品 NO. 4-リビングー」3月24日(金)～28日(火)

会場：神楽坂 die pratzte
演出／真壁茂夫 テキスト／佐々木治己
出演／佐々木敦、中井尊央、柴崎直子、丹生谷真由子、村岡尚子、佐藤一茂、他
◎今回の作品は、若手劇団の「60億人の為の演劇」自動焦点の佐々木治己のテキストを下敷きにし、OM-2のメンバーと自動焦点のメンバーによるコラボレーション作品。



OM-2

パレスチナ紛争の悲惨な現実を直視する、 占領する側のダンス表現

ヤスミン・ゴデール振付
「ストロベリークリームと火薬」
3月1日～4日 にしうがも創造舎
(東京国際芸術祭 2006)

世界のメディアによって表象され続けるイスラエルとパレスチナ。この地域を巡る問題はあまりに複雑で多層的であり、完全に中立的な立場からその歴史と現在を記述することは不可能である。だが、そこに暮らし、表現を続けるアーティストたちの視点からこの地域の現実を解体し、そこから派生するさまざまな問題を問い直すことくらいはできるかも知れない。そんな想いでこの地域のアーティストたちとの仕事を続けている。

2004年10月、在パレスチナ劇場、アルカサバ・シアターとの共同製作のため、舞台美術を担当した美術家・椿昇とはじめてこの地を訪れた。当時はアラファト議長が亡くなる直前で、聖地エルサレム周辺は極度の緊張状態にあった。それから1年後、イスラエル政府からの招聘で再訪したイスラエルでは、ガザ撤退後テロ攻撃が沈静化してきたという楽観的な見方から国内の緊張はだいぶほぐれていたものの、自爆テロは依然変わらず、厳しい占領政策も続いていた。

この二度の滞在が私に残した強烈な残像は、イスラエル社会を支配する「セキュリティ」というスローガンだった。ホロコーストによって地球上から絶滅を迫られ、悲願の建国を果たしてもなお抵抗運動やテロの激しい標的になってきたイスラエル。自らを拡張することで存在を主張し続けてきた強国イスラエルが、今「テロリストの侵入を食い止める」ために建設中の壁は、他者を排するために自らがその内側に閉じこもってしまうというある種の逆説を視覚化してしまっているように

見え見える。ゲッターや監獄を想起させるこの「大きな壁の前で「セキュリティのため」に他者に銃を向けるイスラエルの若い兵士たちから私が嗅ぎ取った匂いは、威圧や憎悪ではなく、疲労と諦めが入り混じった絶望的な痛みと弱さだった。

ヤスミン・ゴデール振付の「ストロベリークリームと火薬」を初めて見たとき、このイスラエル訪問で強烈に残った残像と心象が鮮烈に蘇り、私を根底から圧倒した。それは、私が現地で体験したさまざまな心理的・視覚的な断片が再編成されていくと同時に、パレスチナ・イスラエルという個別の状況を越え、人類の歴史から我々の日常にいたる、あらゆる暴力と関係性の問題を正面から突きつけるものだった。

ゴデールはこの作品をつくるにあたり、メディアに氾濫する写真をダンサーと共に選び出し、その写真から想起されるものをワークショップを重ねていった。テロ直後の現場で恐怖のあまり硬直する女性、その脇に横たわる死体、検問所で銃を突きつけ相手を威嚇する兵士……それは我々が既にメディアによ

って刷り込まれた悲劇と暴力の瞬間である。既にメディア化された映像を過度に増幅し、微妙に変容させていくことでメディアの虚構を暴き、よりリアルなものを出現させるという手法は現代美術の分野では珍しい作業ではないだろう。しかし、ダンスという生のメディアを使ったこの作品は、パレスチナ・イスラエル紛争という「クリシェ」を出発点として、その表象を超え、我々の生活にも潜むあらゆる関係性の暴力を暴き出す。メディアによる表象について執拗に問い続けるゴデールのこの勇気ある作業は、イスラエルから遠く離れた我々の目にどのように映るのだろうか。

「占領される側」のアートは、圧倒的な暴力や不条理に対する抗議を表明することで成立し得る。パレスチナ

チナの演劇はまさにそういったアートによる力強い抵抗であった。しかし「占領する側」イスラエルのアートは、いかにこの現実と向き合い、記述することが可能なのだろうか。今回招聘するヤスミン・ゴデール振付の「ストロベリークリームと火薬」は、この可能性を巡り、考え続けることを放棄しない勇気ある作品であり、我々のこのような疑問と期待に答えてくれるものとなるだろう。

相馬千秋
(NPO法人アートネット
ワーク・ジャパン 国際プログラム担当)

ヤスミン・ゴデール



バグダットからの証言者、来たる。 イラクで何が起きているのか。

IRAQ NOW! 2/13(月)~15(水)
19:00~ ¥1,000
ドラマリーディング+トーク+マイム
◎タイニイアリス

このイベントに向けて、高名な劇作家であるミッサーール・ガジと鋭い若手作家で俳優のヤーセル・アブデル・ラアザックがバグダットより来日。ガジとヤーセルの新作短編戯曲3本を翻訳し、日本人俳優が日本語によるリーディングを行います。また文化研修生として滞在中のイラク人マイム俳優アナス・アジュールと、ヤーセル・ラアザック、日本人ダンサー公門美佳の3名が「オセロ」をベースにしたマイム作品「Ottero in Baghdad 一僕たちには時間がない」を上演。

アナスはマイムグループ・モスタヒールのメンバーであり、イラクの今を身体で伝えたいと張り切っています。演劇への深い熱意を絶やさぬ文化の国イラクからやって来る精鋭たち。武装集団と米軍の戦闘止まぬ日常を生きる彼らの人間の体温と心からの叫びを伝える表現は、TV報道では判らない、フセイン崩壊後のイラクの人々の真実を伝えてくれるはずです。

Mithal Gazy (ミサーール・ガジ 劇作家) …イラクとアラブの同時代を描く、最注目劇作家 ワフアー・フェスティバル最優秀戯曲賞受賞(バスラ 2000年) ジャルシャ・アラブ創作賞最優秀賞受賞(2000年 アラブ首長国連邦) ムハンマド・タイムール創作戯曲賞受賞(2001年 エジプト共和国)他受賞多数

リーディング参加俳優…田口精一(劇団民藝・新劇人会談)、

アジア各都市をネットワークで繋ぐ新宿の小劇場
TINY ALICE より最新ニュース
~「ALICE FESTIVAL 2005」の公演から

美加理(クナウカ)、吉川大輔(机上風景)、皮村 猛(マリッジ・ブルー)、北村耕太郎、笹岡洋介(東京芸術座・新劇人会談)



(写真)…Ottero in Baghdadの3名

ある日、太宰は ipod nano を買い、ひどく赤面した

劇団WANDERING PARTY
「21世紀旗手」
2月17日(金)19:00 18日(土)14:00
& 19:00 19日(日)14:00
◎タイニイアリス

WANDERING PARTYとは～ 2001年同志社大学演劇サークル、第三劇場の出身者を中心に旗揚げ。今まで石川啄木や大杉栄などを主人公に、明治・大正時代を背景にした物語を上演。

【今回のあらすじ】

太宰は激怒した。必ず、かの暴虐邪知の文壇の老大家を除かなければならぬと決意した。太宰は、一介の文士である。小説を書き、女と遊んで暮らしていた。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。ある女生徒が太宰に亮春を申し出た。迷った。「どうすんだよ、おっさん」しかし、君はまだ…? 太宰は、女生徒の耳穴を見た。「これ? ipod」開けば、ハードディスクに音楽データを記憶させ、イヤホンから音が流れる仕掛けになっている携帯蓄音機だそう。米国製だという。太宰はまたも、激怒した。こんなものは、ウォークマンを流行させた東京通信工業社が出すべきじゃないか。いや、遅れをとった分シェアは低いと

ALICE FESTIVAL

のことだ。米国に戦争で負け、今また経済でも負けようとしている。憤りに、「21世紀旗手」の原稿料。決心。太宰は、秋葉原にむかった。太宰は、走った。結果、最新の型で、薄くて軽くて、なにより可愛い ipod nanoを買った。太宰はひどく赤面した。



温かい笑い一杯のチェーホフ作品3本立て!

TAC三原塾「遊び心でチェーホフを!」「プロポーズ」「熊」「創立記念祭」
3/1(水)~3/5(日) @神楽坂die pratze 問=03-5376-1847 作=チェーホフ
訳=中本信幸 演出=戸部和之 出演=田中芳弘 田辺衣子 坂浦洋子 KUMI

★TAC三原塾代表 田中芳弘(代表・役者)さんに聞く
Q-TAC三原塾は、チェーホフを中心に活動されている劇団だと聞きましたが、今までにどういった演目を上演されているのですか?

A-もともとは、チェーホフの書いた短編小説を、劇団員自らが脚色して80本以上上演してきました。忠実に筋を追う脚色だけでなく、時代や国を超えて大胆な発想で面白く取り組んできたので、日本だけでなく、海外でも結構好評だったんですよ。

Q-海外でも公演を行っているのですか?

A-ロシア公演を5回ほど行っています。特に、チェーホフも医者として滞在したこともあるサハリンでは、芝居の枠を超えた交流もあり思い出深いですね。ウラジオストクの演劇祭では「三人姉妹」で最優秀賞をいただきました。

Q-有名な「桜の園」のようなチェーホフ大戯曲はあまり上演しないのですか?

A-もちろん、「桜の園」、「かもめ」等のチェーホフ大戯曲は全て、上演しています。特に、「ワーニャ伯父さん」の原型と言われる「森の精」は顧問の中本信幸先生(神奈川大学名誉教授)の翻訳で、本邦初演となりました。

Q-ずいぶん徹底しているみたいですが、どうしてチェーホフにそこまでこだわるのですか?

A-紋切り型でなく、本当に人間の素晴らしい部分を描いていると思います。芝居を創っていると、だんだん優しい気持ちになってくるのが魅力かもしれません。

Q-では、チェーホフ以外の作品は上演しないのですか?

A-いえいえ、今までも日本近代古典の名作、岸田國士、真船豊先生の作品にも取り組んでいます。これからも、チェーホフだけでなくこういった名作を掘り起こして挑戦したいと思っています。

Q-今回の公演はチェーホフ笑劇3本立てですね。どうしてこの3本なのですか?

A-実は、一昨年に主宰・演出家の三原四郎を亡くしましたが、その遺志を継いで、さらに自分たちが新しく一歩を踏み出すために、有名なチェーホフの短編戯曲、「プロポーズ」「熊」「創立記念祭」を選びました。人間がそれぞれ色んな環境で一生懸命生きていて、それが外側から見ると面白くて悲しい。そんなものを目指して頑張っています。

Q-ところで、一昨年急逝された主宰の三原四郎さんはどういった方でしたか?

新しい演劇を発信する神楽坂と麻布の小劇場 DIE PRATZE より最新ニュース

A-三原先生は、いつも一生懸命であたたかい方でした。よく飲み、よく語り、月並みな言葉ですが、若い僕たちと本気で芝居を創っていました。競馬、競輪も大好きで「当たったら小屋代払ってやるから〜」ってよく言ってましたけど(笑)。

Q-チェーホフというと、堅いイメージがありますが、とても明るくて気さくな田中さんでした。公演頑張ってください。

A-僕たち、単純ですから。「遊び心でチェーホフを!」を合言葉で頑張ってきました。是非、皆さん楽しみにいらしてください。

JOIN IN THE PICNIC 期待の公演情報

◆神楽坂die pratze
2/20(月)~2/21(火)
1Q5000

[ASCEND-04 標高8848M]
問=090-4223-8854 E-mail
=ticket@almondeye.com
WEB=http://www.iq5000.com

◎ジョージ・マローリー 彼はエベレストに登り行方不明になる人類で初めてエベレストに登ったのかどうか? 今なお残る登山史上の謎を解く17歳の物語



◆麻布die pratze
2/23(木)~2/26(日) 銀色金魚
「西暦0001年、ジーザス・プロジェクト」
問=080-3380-1707(銀色金魚保護委員会)

作・演出=賀茂咲子 出演=原田明希子 ケイ 湯川昌代 横野泰他
◎「食」物の事ばかり考えてるから腹が減るんだよね 神とかさ、良く判らねえもの考えてた方が気が紛れるだろ? これは、ただの男を神に仕立てたプロジェクト。



写真右…主宰・演出家 三原四郎(2004年10月7日没 享年65歳)
日大芸術学部中退・舞台芸術学院卒。
下村正夫氏に師事し、青年芸術劇場・文学座・浅草コメディアン等通歴。
昭和43年、演劇集団「日本」旗揚げ、アングラ劇で活躍。
昭和63年、TAC三原塾創立。



